



**平和統一運動次世代リーダー育成のための
「私から始まる平和統一大賞」 青年スピーチ部門及びエッセイ応募原稿フォーマット**

■「私から始まる平和統一大賞」とは

‘ 為に生きる’ 神様主義の真の愛を根本精神として国籍と思想、組織を超越して、国内外の韓民族の和合と統一の実現を目指す平和統一聯合は、2024 年より平和統一運動を同世代や後に続いていく世代の力とするために、この賞を創設いたしました。

■今年の募集テーマは「SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）」

SNS（Facebook、X、Instagram、Line、KakaoTalk、TikTok、YouTube など）を通じた在日同胞や海外同胞との出会いや体験。自分が携わってきたプロジェクトに SNS を活用して成功した事例や失敗。そして、そこから得られた教訓など、これらの事を通じて、今の時代に合う平和統一運動をどのようにしたらよいか、またどのような発信が良い影響をもたらすのかなど、様々なエピソードを募集いたします！

応募条件	平和統一聯合に所属している会員、担当者。または左記から紹介を受けた方。
募集期間	青年スピーチ部門： 募集日程及び大会日程は、ホームページ及び機関誌『平統解放』にてお知らせ致します。 ※ 第1連合会（北関東・東京・南関東）、第2連合会（北海道・東北）、第3連合会（東海、北信越）、第4連合会（近畿・中国・四国）、第5連合会（九州・沖縄）において、2025 年 6 月 15 日（日）まで地方予選を行い、それぞれ代表1名を選抜し、本部に映像提出。 会員及び一般部門 エッセイ募集： 2025 年4月1日（火）～2025 年6月 15 日（日）
スピーチ 原稿規程	【青年スピーチ部門】 5分以上7分以内（制限時間を超過した場合は減点）。※パワーポイント使用可。 【会員及び一般部門 エッセイ募集】 800 字以上 3000 字以内、1人1点。 ※両部門とも主となる言語を日本語で行うこと。部分的に韓国・朝鮮語、または他国の言語を使用しても良いが、日本語の意味を付け加えること。
応募方法	Word ファイルのまま、応募フォームよりご応募ください。※ 青年スピーチ部門に応募の方も、同様に原稿を提出してください。郵送、FAX でのご応募はご遠慮いただいております。
発表	2025 年6月下旬 ホームページにて公開。 入賞者には、メールまたはお電話にて直接ご連絡をさしあげます。 両部門の大賞受賞者は、7月4日東京都内の記念行事でスピーチします。 その交通費は本部負担。



題名： 平和統一運動を自分ごとに ― SNS 発信でつなぐ共感の輪

お名前： 小堺淳仁

(下記より本文をご記入ください)

私は学生団体で「国際和解」をテーマにした活動に取り組み、その中で広報を担当しました。きっかけは、以前から「世界平和に貢献したい」「人類大家族世界の実現に向けて何か行動したい」という思いを抱いていたとき、大学の先輩に声をかけてもらったことでした。

ただ、平和や共生といったテーマは抽象的に受け取られがちで、とくに「国際和解」は、多くの人にとって「自分ごと」として捉えにくいと感じていました。そこで私は、SNS が持つ“共感を生む力”に着目し、広報活動に活用することで、その距離感を少しでも縮めたいと考えようになりました。

広報では Instagram や X などの SNS を活用し、「誰に届けたいのか」を明確にした上で、ターゲット層の目線に立って投稿内容を構成することを意識しました。特に、「和解」に対して関心を持っていない層にもアプローチすることを重視し、そうした人々が一歩踏み出すきっかけとなるよう、言葉選びやビジュアルに工夫を凝らしました。堅すぎず、親しみやすいトーンを意識し、「自分ごと」として受け取ってもらえるよう心がけ、投稿を作成していきました。

また、日本人以外の方にも想いを届けるために、多言語での発信も行いました。投稿を定期的に行い、SNS ユーザーとの接点を少しずつ増やしていくことで、イベントやその背景にある理念への関心を高めていくことを意識しました。

こうした取り組みの結果、活動への参加者が大幅に増加しました。とくに多言語での投稿については、外国人留学生から「読みやすかった」との声をいただき、活動への心理的ハードルを下げることもつながったと感じています。

この経験を通じて、多様なバックグラウンドを持つ若い世代が自然に共感できるような発信を行うことの重要性を実感しました。SNS は時に分断を生み出すこともありますが、使い次第で「共感」を生み出し、異なる他者をつなぐ力があると強く感じています。炎上を恐れすぎず、互いを尊重するコミュニケーションを目指しながら、これからも発信の工夫を追求していきたいです。

そして広報に取り組む中で私が強く実感したのは、「誰かがやるのを待つ」のではなく、「まず自分が動く」ことの大切さです。たとえ小さな投稿であっても、平和の火種になると信じています。

平和統一運動への思いとして、これからも自分にできることを見つけ、熱意を持って地道に取り組んでいきたいと考えています。